令和２年度　第１回　在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会

令和２年９月１７日（木）　１８：３０～２０：００

益田地域医療センター　医師会病院２階　第１会議室

入退院連携関係者のための“人生会議（ACP)”活用法

益田市高齢者福祉課　地域包括推進係

社会福祉士　渡辺　秀美

本日の流れ

◆寸劇「入退院あるある」

◆グループワーク①

「あるある！～困りごとの共有～」

◆グループワーク②

「今後できそうなこと」

◆発表

◆まとめ

寸　劇

【登場人物】

・本人（Aさん）　８０歳　女性　独居

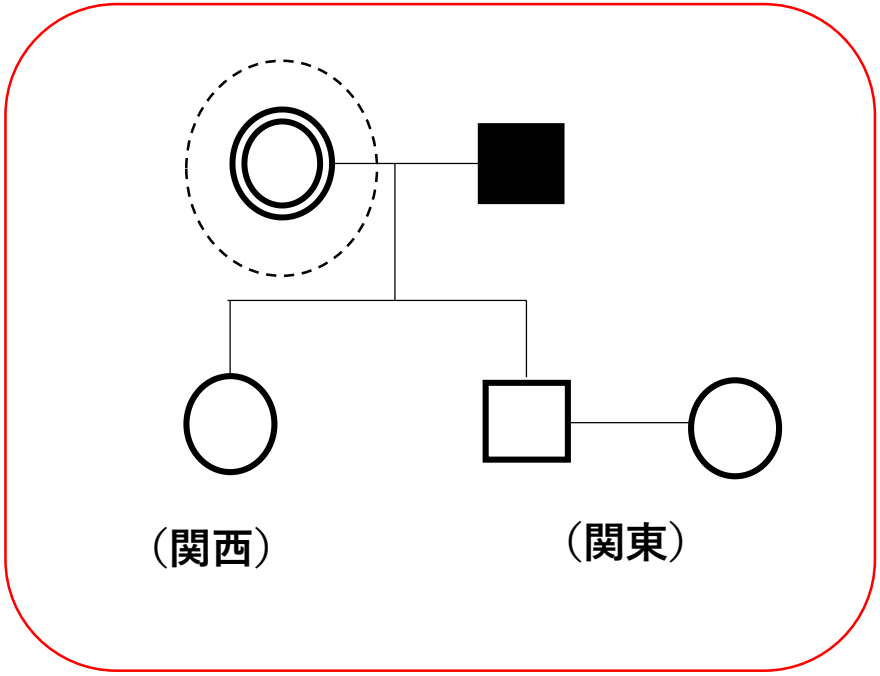
　要介護　１　　穏やかな性格

・家族（長男の妻）

・担当ケアマネ

・病院相談員

・病棟看護師



グループワーク①

○寸劇と同じような事例、経験した事ありませんか？

○それぞれの立場で経験した事のある事例を共有してみましょう。

グループワーク②

○グループワーク①で共有できた事に対して、今後どんな対処が考えられますか？

○自分の立場でできることを考えてみましょう。

○グループ内で共有しましょう。

発　　表

Cグループ
CM：本人と家族に話し合うよう勧める。
NS：安心できるような声かけ。（在宅生活）
最期をどう迎えたいかACPについて話し合う機会を設ける
認知症で意思表示が難しい人、家族へ気持ちを伝える。
日ごろから家族、本人と話したらどうかと声掛けする。

発　　表

Cグループ
包括：地域で不安を抱えている人がいる。
お互い心配しているのに話すきっかけがないのでは？
この先どのように生活したいか、話し合うことについて声掛けする。

発　　表

Eグループ
包括：１００歳体操へ参加。住民の顔と名前を知る。地域ケア会議で他機関と共有する。ACPの普及啓発。
施設CM：GH、養護への働きかけなど情報提供。看取りについて繰り返し確認する。
老健：在宅生活のイメージを持っていただく働きかけ。
　退院後の生活に向け、家族とも共有する。
CM：「もし・・・」という話をしてみる。本人、家族がイメージしやすいような質問。仮説の提案。
MSWにCMの見立てを伝える。

発　　表

Aグループ
保健所：ACPについてひとまろビジョンなどでの啓発。
敬老会などイベントでの周知。
オンラインを活用した家族との相談。（遠隔相談）
早い段階で本人の希望を聴き取る。
CM：家族へ適切な情報提供を行う。

発　　表

Bグループ

MSW、施設CM、在宅CM：話し合いを継続していく。
家族の意向に沿った話になることもある。
本人家族の意向をみんなで共有しておく。
なかなか正解がないこと。
後悔のないように働きかけができれば。

発　　表

Dグループ
CM：家族が複数いてそれぞれに意見がある。
同じ場所での話し合いの提案。（家族同士）
その都度本人、家族の意向をすり合わせる。

発　　表

Fグループ
できるだけ早めに本人、家族、支援者が同じ方向を向くよう働きかけ。
家族の立場になることも有る。
家族の中で意思統一できるよう話し合いを持つ。
病院：現状、予後予測、入院前の情報をしっかり伝える。
サービスを利用しながら在宅生活ができるということを専門職の方から本人、家族へ伝えていく。
考えられる選択肢を伝える。
本人に施設を見ておいてもらう。自分で選択できるよう準備をしておく。

参　　考

「人生会議選定委員のコメント」

◎小藪千豊さん（タレント）

「母親は50代で亡くなったが、その時に『こんなに身近にいた人ともう二度と話せなくなるのか』とやるせない気持ちになったことを覚えています。もしこれから家族が亡くなるとしたら本人の希望通りに看取りたいし、その後のことについても意思を知っておきたいと思います。正月やお盆など、一年の節目で**人生会議**が出来たらよいのではないでしょうか。自分の希望について、事前に家族と話し合っておけば、自分のように、あの時聞いておけば良かったと後悔することもなくなるのではないかと思います。」

◎小山薫堂さん（放送作家、脚本家「おくりびと」）

「先日実家に帰省した際、久しぶりに会った父は晩酌をやめていて、今後について何か言いたそうにしていました。そんな時『**人生会議**しようか』と言えたら、大切なことを話せるのではないでしょうか。例えば還暦、例えば50歳の誕生日の時、残りの人生をどう豊かに過ごすかといったことを家族とする。何度か話すうち、ごく自然に『こういう風に最期を迎えたいな』という話になるでしょう。『おくりびと』から10年経過して、今度は『おくられびと～人生会議』にしてみようかというアイデアも浮かんだりしました。」

ま　と　め

◎「人生会議」について少しでも理解できたでしょうか？

◎まずは自分ごととして考えてみましょう！

「自分だったらどんな療養がしたい？」

「自分だったら誰に伝えておきたい？」

「自分だったらどんな形で残したい？」

「自分の家族のことはこう支えていきたい」

などなど・・・

ま　と　め

◎専門職として、

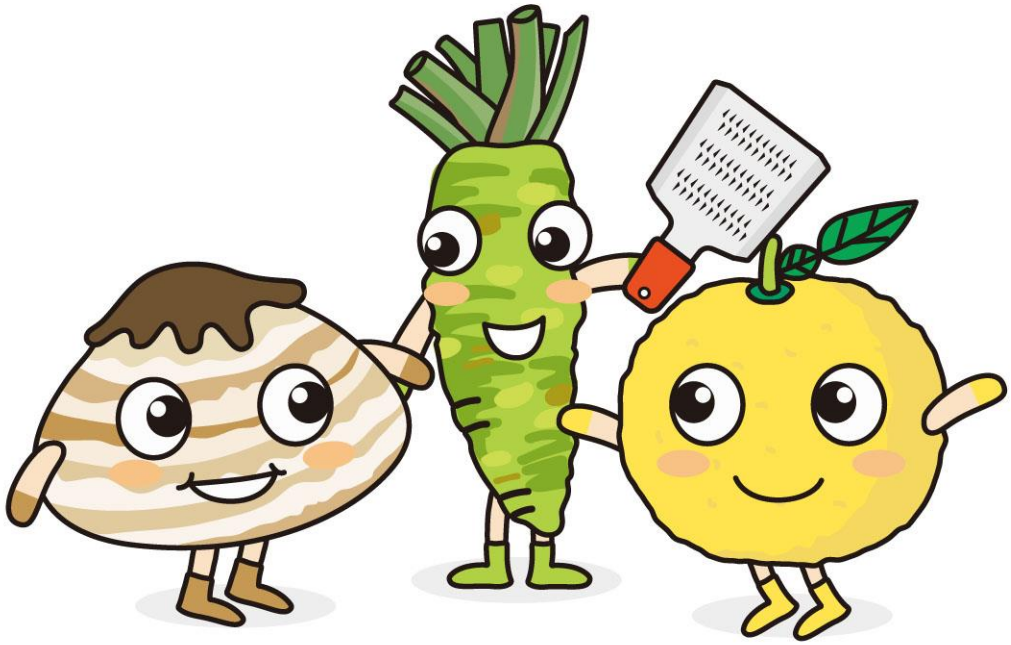
目の前にいる人（患者、利用者、家族など）

を誰とどんな方法で支えていきたい？

➡それって、チームアプローチですよね！

➡「医療」と「介護」のチーム全体で支える

➡だから医療と介護の連携が重要

本日の研修、

お疲れさまでした。